

令和5年8月8日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

コブノメイガの発生が多い状況です

7月31日～8月3日に実施した普通期水稻の巡回調査の結果、海外飛来性害虫のコブノメイガの発生が多い状況です。コブノメイガの発生が多い年にはトビイロウンカの発生も多い傾向があることから、注意が必要です。福岡管区気象台が8月3日に発表した1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多く、気温は高い確率50%と予測されており、コブノメイガ、トビイロウンカともに発生の好適条件が続く可能性があります。

1 発生状況

7月31日～8月3日に実施した普通期水稻（40圃場）の巡回調査の結果、コブノメイガの発生圃場率は67.5%（平年：16.0%）で、過去10年間では令和2年と同じで最も高く、25株当たり被害苞数は2.3葉（平年：1.2葉）で令和2年の9.7葉より少ないものの過去10年間で2番目に多くなっている。

2 防除対策

調査時点では被害苞に幼虫は見当たらず、成虫も確認できなかったことから、蛹期間であったと推測される。今後成虫が羽化、産卵し、幼虫がふ化する時期が防除適期となるため、粉剤や液剤の場合は発蛾最盛期の7日後を目安に農薬散布を行い、粒剤の場合は発蛾最盛期に農薬散布を行う。

防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病虫害対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守して使用する。

病虫害対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



3 トビイロウンカの発生状況

これまでの巡回調査、予察圃場調査及び予察灯ではトビイロウンカは確認されていないが、同じ海外飛来性のセジロウンカやコブノメイガは確認されていることから、トビイロウンカも飛来している可能性があり、九州等の他県では飛来が確認されているので、今後の発生状況に注意する必要がある（令和5年7月12日発表の病虫害防除技術情報第2号「トビイロウンカの防除対策の徹底について」参照）。